

( 続紙 1 )

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	田 暁潔
論文題目	Regeneration of Ethno-biological Knowledge in Children's Daily Practices: With Special Focus on Pastoral Maasai in Southern Kenya (子どもの日常実践における民族生物学的知識の生成 ーケニア南部に住む牧畜民マサイの事例からー)		
(論文内容の要旨)			
<p>人びとが生活のなかで蓄積し活用してきた民族生物学的な知識 (Ethno-biological Knowledge: EK) が、生物多様性の保全や地域社会の持続的発展のために有効に利用できるという認識は、広く共有されるようになった。その一方で、社会環境や自然環境が大きく変化するなかで、新しい世代はEKを失ってゆくのではないかと懸念も提起されており、EKに関する研究は、現在、アフリカ地域研究の重要な課題のひとつである。本論文は、ケニア共和国南部に住む牧畜民マサイを対象として、子どもたちがどのようにEKを生成しているのかを、定量的・定性的なデータにもとづいて文化人類学と発達心理学の方法に依拠しつつ実証的に明らかにすることを目的としている。</p> <p>本論文の序論である第1章では、民族生物学における理論的な進展と、この分野における子どもの発達にかかわる議論を整理し、EKの獲得を理解するためには、社会的な文脈に配慮しつつ子どもの日常的な実践に注目する必要があることを論じた。</p> <p>第2章では、農業と観光業の進展や市場経済の浸透によって、マサイの生業活動が大きく変化している現状を記述した。マサイは牧畜を主たる生計手段として維持しながらも、出稼ぎなどのさまざまな現金稼得活動に従事している。また、調査地の子どもたちは現在、大多数が学校に通っている一方で、性別と年齢に従って幼い時期から生業活動においても重要な役割を果たしている。</p> <p>第3章では、一つのホームステッドに住む2～11歳の少女4人と少年9人の日常活動を、生業活動と遊び、休憩、移動、その他の五つのカテゴリーに分類して記述した。特に、6歳以上の少年と8歳以上の少女は生業活動にもっとも多くの時間を費やしていること、また、子どもたちは多様な遊びをおこなうが、なかでも「ごっこ遊び」がもっとも頻繁に見られることを示した。</p> <p>第4章では、子どもたちが牧畜活動にどのように参与し、そのなかでEKをいかに習得しているのかを記述した。子どもたちは学齢に達する以前から家畜管理を手伝っているが、学校に通うようになると、少年たちは日常的に搾乳や家畜の健康管理に参加するほか、休日には、日帰り放牧や家畜キャンプにおける放牧にも従事していた。少女たちは主として搾乳や幼獣の世話をたずさわるが、牧畜活動への参与は年齢とともに減少し、家事に従事する時間が増加する。本章では学校に通う子どもたちであっても、家畜管理に参与することをおして牧畜という生業活動に関するEKを確実に習得</p>			

していることを明らかにした。

第5章では、薪の採集に従事することをおして、少女たちがいかにEKを生成しているのかを論じた。調査対象とした6～15歳の12人の少女たちは学校が休みであった55日間のうち、21日にわたって薪採集に参加していた。彼女たちは樹木の太さや乾燥度合いを吟味しながら多様な植物種を利用しており、その過程で豊かな身体的経験を積みつつ知識や技能を習得していた。少女たちはまた、こうした経験のなかで得た知識や情報を、子ども同士あるいは成人とのあいだで交換しあっていた。

第6章では「放牧ごっこ」と「ままごと」という二つの遊びに焦点をあてて、遊びのなかで子どもたちが日常生活における仕事を再現し、さまざまな社会的な役割を演じつつEKを生成していることを論じた。たとえば放牧ごっこのなかで子どもたちは、放牧地や給水地、放牧ルートなどを模擬的につくり、実際の放牧中に遭遇した出来事（家畜が迷子になったことなど）を再現して、自分が過去に得た経験や情報を伝えあっていた。

最後に第7章では本論文の論点を整理し、マサイの子どもたちに見られるEKの生成に関する二つの重要な特徴を論じた。第一に、子どもたちは学校に通っているにもかかわらず、依然として生計維持に関連する日常活動に積極的に関与することをおして、自然環境の認知と利用や家畜管理に関する身体的経験を積み、技能を発達させつつEKを習得・生成している。第二に、生業活動や遊びに参加することをおして、マサイの子どもたちは社会的役割を果たしつつ、社会のほかの成員とのあいだで密接なコミュニケーションを実現している。本章では、こうした活動と対人的な相互行為、その基盤となる社会的・文化的なしくみのなかで、子どもたちがEKを習得・創出していると結論した。